
理想の死に方

遊崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理想の死に方

【Nコード】

N0164K

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

理想の死に方って、何だと思う？

「理想の死に方、ねえ」

「そう、理想の死に方。」

「どんなのが理想だと思うよ、君は」

俺の右側に腰をおろしていた「奴」が唐突に尋ねる。

「んー、そりゃ、家族に看取られて老衰、つつーのがお決まりのシ
アワセな死に方じゃねーの？」

「違う、違うよ。」

まあ殆どのニンゲンはそれを望んでるのかもしれないけどさ。

ぼくはそうは思わないね」

「ああん？じゃあどんなのが理想だってんだよ」

「聞きたい？」

「奴」は初めて俺の目を見て、にやりと悪っぽく微笑んだ。

「あーはいはい、聞きたい聞きたい」

「なんだよその適当な感じ」

まあいいや、しょうがないから聞かせてやろう

一番シアワセで、理想的な死に方はさ

『愛するモノに殺される』事じゃないのかって、思っただよね」

「ほーお、それは何故ゆえ？」

常人では微塵も考えないようなことをさらっと言ってのける「奴」。

まあ、同意する部分もあるけれど。

「まあ、とりあえずニンゲン、あと機械とかそういうのだったとし

ても、それを心から愛しているとしよう。

本当にこれとやら世界を敵にまわしても怖くない、くらいにね。

他の奴はどうか知らないけれど、ぼくは死に際の、年老いて、寝たきりの醜い自分を愛しい人に見られたいと思わないのさ。

これは死に際の老人を侮辱しているわけじゃない、自分のことだから、誤解するなよ」

そんなことを真顔で言う。

変なところ、臆病っていうか、なんなのか・・・

「ああ、わかってる」

「僕はそんな醜い姿を晒したくない

だからどうせなら若くて綺麗なうちに、末期癌とかに罹ったりして抗癌剤治療なんてうけずに、あとはいつそ事故であつさりとか、そういうのもいいなあと思うけど・・・」

「けど？」

「まあこれから安楽死が合法になるなら病気に罹って殺してもらうのもいいだろう、でも、やっぱりさあ

首を絞めるとか、心臓を一突き、とか

そついう風に、殺されたいんだよねえ」

「奴」

俺の愛しい愛しいひとは、そう言うてにっこり笑った。

恍惚としているような瞳。

きつとこいつは本音で言っているのだろう。

俺に、愛しい愛しい俺に、自分を殺してくれと。

「ハッ、嫌だね」

そんなヤンデレエンド、辿り着くものか。

「俺は、絶対お前のこと殺さねえからな
最期まで付きまとして、お前が嫌がる顔見て、笑ってやんよ」

「意地悪だなあ・・・」

「っつか、わたし、お前のことなんか」

「「愛してないしっ」「」

「ていうかそれ、プロポーズ？」

「さあな。」

end

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0164k/>

理想の死に方

2010年10月17日04時35分発行